日向学院図書館だより　第10号　　読書は心の栄養です　　平成30年8月17日発行

図書館へ行こう！

２学期が始まります。行事などで図書館を訪れる機会が多くなる時期です。マナーを守って正しく利用しましょう。

＜図書館利用の三原則＞

・制服で入館しましょう。体操服などで入館することはできません。
・静かに読書・学習をし、他人に迷惑をかけないようにしましょう。
・図書は丁寧に扱い、返却期限はかならず守ってください。

休み前に借りた本は、早めに返そう！

《図書館での水分補給について》熱中症予防のため、夏は閲覧室で水分を取ってもかまいません。飲むときだけペットボトルや水筒をカバンから出すようにし、机や床の上に置きっぱなしにしないようにしましょう。 図書環境保全にご協力をお願いします。

先生方おすすめの１冊

国語科　黒岩充秀先生のおすすめ

森本雍子著『保食神（うけもちのかみ）に導かれて＜日向の国＞を歩く』

日本の食糧自給率の低下に歯止めが効きません。各県での努力は様々な部門で計画・実践されており、それなりの成果をあげています。「飽食の時代」のことばを耳にしながら生活している我々ですが、人々が生きていく歴史を、古くは『日本書紀』に訪ねてみませんか。

保食神は自ら五穀を生み出され、人々の生業の繁栄を導くことでした。現代を生きる私たちの食生活と人々の姿を今見つめなおす意味でもお薦めします。

※黒岩先生は、この本の監修（書籍や著述の編集を監督すること）を担当されました。

英語科　朴　恩瑩先生のおすすめ

中野　信子著『あなたの脳のしつけ方』

みなさんはより効果的な学習法を知りたいですか。孫子の兵法に「彼を知り己を知れば百戦危うからず」という言葉があります。学習において脳は必要不可欠なものですから脳の働きや習性を理解すれば「百戦危うからず」ができます。

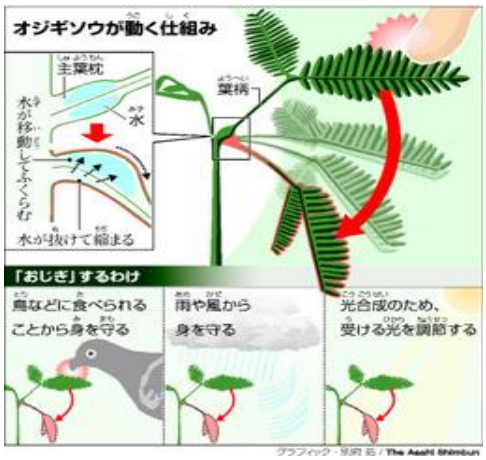
本書は集中力、記憶力、努力など学習に必要な能力について、脳科学からのアプローチで解説してくれます。中でも私に興味深かったのが2点ありました。

1点目は「やる気」についてです。日ごろ生徒たちは「やる気が出なかったので勉強や宿題ができませんでした。」とよく言います。しかし、誰でも勉強はしたくないはずです。やらなければならないことだから仕方なくやって終わらせると私は思っていましたが、そのことについて納得できる説明が書いてありました。

2点目は「努力中毒」についてです。私は日本に来て18年になりましたが、失礼かもしれませんが、日本人は常に全力投球するタイプの方が多いと思います。日本では努力は苦しければ苦しいほど意味があって、あまり苦しまず結果を出す人には風当たりが強いと思います。しかし、海外では違法や道徳的に問題がなければ、苦しまずによい結果を出すと「smart(賢い)」や「practical（手際のよい）」といわれます。本書にはそのことについても脳科学的に説明されています。

本書には学習面だけではなく、モテ力、愛情力、強運力なども脳科学的な面で説明されているのでみんなに参考になるのではないでしょうか。自分の脳のしつけ方が分かるかもしれません。

触ってみてね！！　オジギソウ



図書館の入り口で、オジギソウを3鉢そだてています。その葉に触れたり振動を感じたりすると瞬く間に小さな葉をぴたりと閉じ合わせ、軸の付け根からかくんと下向きに折れる姿が面白いマメ科の被子植物です。原産はブラジルで、江戸時代後期にオランダ船によって日本にやってきました。花言葉は「繊細な感情」「感受性」「敏感」。軽く触れるだけで、葉が閉じ垂れ下がってしまうことにちなむそうです。図書館に来て、ぜひオジギソウに触れてみてくださいね。